

新潟県

# 公民館だより

# 2

February 2023  
No.823



## TOPICS

トピックスその1

令和4年度  
上越地域「公民館  
のつどい」開催

上越地域三市公民館連絡協議会主催の「公民館のつどい」が、12月8日(木)に上越市のユートピアくびき希望館で開催されました。上越市、糸魚川市、妙高市と上越教育事務所社会教育課の公民館職員等の119名の皆さんが参加して13時30分から約3時間の日程で3年ぶりに開催されました。



会場のユートピアくびき希望館



講演会講師の  
内田光俊 西大寺公民館長

### 〈開 会〉

三市公民館連絡協議会の岩野俊彦会長（上越市立中央公民館長）から「地域の人を訪れる公民館や公民館活動の可能性を考えるヒントを講師の内田館長からの実践を学ばせてもらいたい。」という開会のあいさつがありました。

### 〈研修会〉

\*テーマ：「コロナのおかげで見えてきた公民館活動の可能性」

\*講師：岡山市立西大寺公民館館長  
内田光俊様

講演は岡山県特産の梨の紹介から始まり、コロナ禍での社会の格差と分断、公民館の休館と事業の休止などの様々な問題の顕在化と、それに対する全国の公民館の対応を日本公民館学会調査からお話しされました。その中ではオンラインの活用による公民館の新たな可能性、地域コミュニティの維持発展の事例、岡山市の公民館は何をしたのか、なぜできたのか、見えてきた可能性、その実現のための提案、具体的な取組のヒントなどについて、熱のこもった講演でした。

講演後の質問が新たな形式で行われました。3市からそれぞれ1名の方が事前に質問を講師に送り、当日それを補足発表し講師がそれに答えるという形式でした。ほかの参加者からも質問も用意されました。これにより深い内容の質問ができ、講師も回答を考え掲示物を用意しており、講演会がより深まるシステムでした。



3市の代表者が質問や意見を述べた



講師も掲示物を用意して回答された

### 〈閉 会〉

上越教育事務所社会教育課の青山範夫課長から閉会のあいさつがありました。

トピックスその2

令和4年度  
新潟市公民館全職  
員研修会開催

地域に出かけ、地域課題解決のための事業を実施し、地域住民と学び合うことにより、より地域に根ざした公民館を目指すための「公民館改革宣言」を着実に推進するために、公民館職員の意識改革や資質の向上を目的に、公民館全職員を対象とした研修が開催されました。



【テーマ】地域づくりにおける公民館が果たすべき役割について、社会教育・生涯学習について学びなおし、職員一人一人が公民館が果たすべき役割について考え、日々の業務に取り組み姿勢を見直す機会となりました。

【講師】新潟医療福祉大学  
講師 佐藤 裕紀氏

【日 時】令和4年11月11日(金)・15日(火)  
両日とも午前9時～正午

【会 場】横越地区公民館 多目的ホール

## 特集 全国公民館セミナー参加者レポート

第34回全国公民館セミナーが令和5年1月11日(水)～13日(金)までの3日間、東京都千代田区にある丸の内マイプラザホールで開催されました。講師が一流で研修内容が充実していることから毎年全国各地から多くの参加者があります。新潟県からは2人の方が参加しました。

〈参加者〉  
村岡 龍成さん(新発田地区公民館)  
宮川 真司さん(上越市社会教育課)

「全国セミナー参加で  
決意を新たに」  
新発田地区公民館 村岡 龍成

コロナ禍での開催となった当セミナーは3年ぶりの対面での研修となり、全国の公民館職員計61名が研修に参加した。

テーマは「公民館のミライ」。コロナ禍によって良くも悪くも大きく影響を受けた公民館。人との関わり方がより一層重要視されている今、公民館以外の様々な分野で活動されている皆様からお話を聞くことができた。

【1日目】「公民館のミライを描こう」事例発表・シンポジウム

講師の永田氏はデザイン・クリエイティブセンター神戸(通称K-I-T-O)のセンター長として地元の企業等と協同し、「みんながクリエイティブになる。そんな時代の中心になる。」をスローガンにあらゆる世代を対象とした取り組みを行っている。



永田氏は、土を市民、水を市役所・公民館・社協・大学・企業、種を活動・プログラム、風をK-I-T-Oと表現した。我々公民館(水)は、講座・展示会などの事業(種)を計画し運営している。そこに市民(土)が参加する。K-I-T-O(風)はその事業に、既成概念にとらわれないアイデアや工夫を取り入れるコーディネーターのような役割を担っている。事業に魅力を与えることで市民を巻き込み、事業にクリエイティブさをプラスするのだ。私もそうだがどうしても事業周知に難航したり、人の集まりが悪い事業がでてしまう。そのときに、事業であれば「こういことをしたいのだが、こういうことができる人はいませんか?」など、人に役割を与えることで、地域の方々は協力してくれるという。

いま私たちに出来ることは、自ら、良い「種」をつくるということだ。この研修で特に一番感じたことは個々の力だけでは限界があるということだ。水や土、風関係なく、人と人との交流のなかで、前例踏襲せず個人又は一つの公民館だけで実行するには限界がある。た



だ、そのなかで「+クリエイティブ」を加えることで私たちはより良い水にもなれ、良い種を作れる存在にもなれると講演を通して気付くことができた。

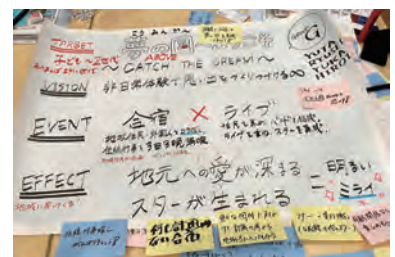
【2日目前半】「若者が公民館にかかわる!短期大学と地域・公民館との連携」

「公民館は高齢者が利用する施設、そもそも入っていないのかわからない、暗い。」などといった意見が若者には多いようだ。私がいる公民館では地元の温泉を活用したことも事業や市内で生涯学習活動をしている団体や個人にお声掛けをし、講座を開催するなど多くの人と協力しながら事業に取り組んでいる。しかし、他の公民館と同様に、若者を公民館に呼び込みに非常に難儀している。若者をのり役にするために、三瓶氏は「コラボ」という言葉を何度も口にした。様々な分野の人とコラボすることで、その分様々な人を巻き込むことができるからだ。

そういったたくさんの人と関わりを持つことができるなかで、若者をターゲットとした事業を組むほかに、ボランティアや事業を共同で行うなど、若者を巻き込んだ事業づくりを計画することができるとは公民館の強味ではないかと考えるきっかけづくりとなった。

【2日目後半・3日目】「ワークショップ・ミライをデザインするワールドカフェ」  
与えられた条件のなか、「公民館の「ミライ」を考える場」という企画書をグループワークで作成した。「予算・ハード」という言葉を使用せず、「コラボ・ミライ」という文字をいれた企画書を完成させる。といったことが今回の条件だった。

グループワークでは「予算・ハード」



関心を大切に様々な視点で発言をした。

私たちの班では、「ミライを担う「こと」もたち」に着目して企画書を作成した。

「地元への愛が深まる」「スターが生まれる」「明るい未来」を効果とし、非日常体験で思い出をつくり続けることをビジョンとして取り上げた。あえて、子供たちが地元に残るように思い出を作る!にはせず、大人になっても地元を忘れない。という方向にスポットをあてた。3日目のワールドカフェで他の参加者の班から自分達の企画書について様々な意見をいただいた。即席の企画書のため穴は多くあったが、ミライを創ることもたちに着目した企画書は違う班の多くの方から好評をもちうることができた。クリエイティブな発想で大袈裟に作り上げた企画書のもりだったが、自分の公民館に帰り、研修を振り返るとそのクリエイティブさ・アイデア力は自分に足りなかったものなのかなと気付いた。

常に安定を求めることは悪いことではないが、なにか一つアクションを起こすことで、前例踏襲することなく、また未発掘な隠れた人材とコラボすることがで

という言葉を無視してよいための様々なクリエイティブな案が飛び交った。今回のワークショップには正解がないため、経験の中からだけで、アイデアを探さず、自分の興味・



1日目のシンポジウムでは、デザイン・クリエイティブセンター神戸、センター長の永田宏和さんと、アーティストのアサダワタルさんが講師でした。永田さんの「世の中にあるつながっていないものをつなぐ種（＝活動、プログラム）」はそれぞれの地域にあ

今回の全国公民館セミナーでは、公民館活動に携わる上での心構えや先進的な活動の事例を学んだほか、全国で活躍されている公民館職員とのワークショップや情報交換などを通して、大変刺激を受けた3日間でした。

「公民館のミライを考える」  
上越市教育委員会  
社会教育課 宮川 真弓

きるかもしれない。また、仕掛け方を考えることで今までにない事業を創ることができるかもしれない。  
今回の研修で、自分の仕事の仕方についてもミライを考えるきっかけとすることができた。自ら動いていくことで、地域貢献ができるようこれからも意欲的に事業に取り組んでいきたい。

り、それをデザイン（＝設計）するのが自分の仕事「アサダさんの」「コミュニケーションのあいだに挟むもの（＝音楽など）」「バリエーションは豊か」があれば個人がより見えてくる」とのお話から、人と人をつなぐものを地域と一緒に模索することも公民館としての大きな役割であると感じました。また、つながることは簡単ではなく、ゆるさから生まれる人とのつながりもあるというお話から、公民館がゆるやかに集まれる場所でありたいと思うとともに、公民館で参加者や利用者等待っているだけではなく、公民館ができることを地域へ届けていくという姿勢にも共感しました。

2日目の桜の聖母短期大学で生涯学習センター長を務める三瓶千香子教授による講演では、若者を地域の「のり役（＝つなぎ役）」にするためのヒントを学びました。企画のアイデアは人生経験値によるものであり、学生（若者）は新しいアイデアは出しにくい一方で、ひっかかり力が高いため、若者に「企画してください」ではなく「疑問に思ったことを教えてください」とした方が面白いことが生まれるかもしれないとの助言がありました。また若者のやわらかい発想を引き出すためには、経験ある大人のファシリテーション技術が問われるとのことでした。当市の公民館においても若者の企画は課題であり、中高生や大学生をうまく巻き込んで地域づくりに新しい風を吹かせてみたいと思いました。

続いて公民館活動の現場で活躍されている公民館職員4名の事例発表では、若者が「公民館に用事がなく」と言っているので

用事をつくったところ「放課後みたいでいい」と集まってくれている事例や、公民館が県境を超えて子どもや高齢者をオンラインでつないだ事例の紹介がありました。また外国人コミュニティとの交流事例からは、まずお互いを知ることがその先の未来づくりのために大切だと学びました。「地域コミュニティの原点は楽しい時間を共有することであり、やるうとする人が面白いと思うこと、面白いを見つけてよとすること」の心構えは大変参考になりました。地域の話を真摯に聴き、相手の思いや理念を共有し擦り合わせながら事業化していることは、どの事例においても共通していたように思います。

2日目のワークショップで「公民館のミライを考える場」という企画書を作成し、3日目のワールドカフェという手法を用いて企画書の改善、共有をするという実践を行いました。他グループの斬新な発想に驚かされるとともに、自分のグループだけで企画を考えた時よりも、他の参加者からの意見（素直な肯定的な意見、斜に構えた皮肉的な意見、提案・アイデア）の中で反映できそうなものを取り入れることで、ブラッシュアップされた企画書が出来上がりました。日頃の事業立案の際も、この実践を生かしていけたらと思います。

参加者同士の情報交換では、公民館の規模や、職員としての立場（館長、会計年度任用職員、公民館専門職、教員派遣、教育委員会職員、市長部局職員など）は違いますが、地域がもっと良くなるための公民館活動に貢献したいという思いは皆さん同じでした。また、人が集まらな

い講座があった、利用者の高齢化、コロナ禍における公民館活動の制約に苦慮しているなど、共感できる話題が多くありました。研修の休憩時間は会話のキャッチボールが飛び交い、とても良い雰囲気の中で研修でした。

今回のセミナーを通して、地域を主役として公民館がどう関わられるかを公民館職員だけが公民館の中だけで考え対応するだけでは限界があるため、対話による信頼関係を築きながら、ゆるくみんなを巻き込んでいくことが必要だと気付かされました。地域課題はそうしたやりとりの中から浮かび上がってくるものであり、それはお互いが構えていては生まれません。そのため、公民館の日常にゆるさや余裕のある雰囲気が必要なかもしれません。今後アントナを高く張りながら公民館職員として邁進していきたいです。





# 「少子化の中での公民館活動」

上越市中郷区教育文化グループ 野坂 公子

上越市中郷区は、市の南西部、妙高山麓の丘陵地に位置する町です。現役のスイッチバック方式の駅、遊園地などの娯楽施設があり、多くの観光客が訪れます。一方、中郷区においても少子化、人口減少が大きな問題になっていきます。

昨年実施した住民アンケートの中で「教育や文化の取組で重要なことは何か。」という問いに、「子どもの居場所づくり、登下校の安全、子ども向けの講座やイベントの開催が上位を占めました。この結果を受け、今年度公民館において問題解決に向けた取り組みを始めました。取り組

むにあたり、地域と学校を結ぶ活動や地域福祉の推進を図っている「中郷区さとまる学校」と連携することになりました。まずは、課題をより具体化するために学校の保護者、地域協議会委員、地域振興担当職員が集まり、課題の抽出が行われました。会議では、子どもの減少で部活動の運営が困難、子どもが集まる場所がないなどの意見が出されました。これを受けて12月には、多くの保護者や地域協議会委員、行政職員など30人ほどが集まり、保護者からは部活動への支援、Uターン者への支援などの要望が提案されました。また、中郷区へUターンした方からは、「芸術に触れる色々な活動の場を作りたい。」など具体的な案もいただきました。

公民館では、皆さんからの声を受けて、3月に子どもの居場所づくりの一環として、3Dアートをテーマに事業を行います。また、来年度に向けて住民アンケートの結果や地域の現状を意識しながら今後の公民館事業等の計画づくりを進めていきたいと思っております。



舞踊の部 藤扇佳

脳トレ・筋トレ・リフレッシュ!!

(魚沼市伊米ヶ崎公民館)

軽体操にと舞踊の藤扇佳紗伊藤万千代)先生にご指導いただき



活動の目的は、老化減速、心身リフレッシュ、地域コミュニケーション

あれから10年！地域の皆様の応援と家族の協力、そして近くには何時でも練習させていただける伊米ヶ崎公民館があり、環境に恵まれていた事、愉快に、根気よいご指導で少しずつ成長し今日まで良く続いたものと感慨を深くしています。



新たな振付けに、ステージの端から端へと走り踊ります。チームワークを第一に、観てくださる方々と一緒に楽しみ、和めるようメンバー全員で「心を一つに」「合わせて踊る」を心掛けています。コロナ禍中、地区の祭礼、公民館事業等中止の続く中、令和4年

ティ事業への参加協力e.t.c. 今が旬の曲を、ジャンルを問わず民謡からポップス、アツプテンポの曲まで多種多様。斬新な振付けに、ステージの端から端へと走り踊ります。

4月に3年ぶりに魚沼市「舞踊のつどい」が小出郷文化会館大ホールにおいて開催され、3曲出演。内1曲は先生のご指導3グループ合同による大作『ダイナミック琉球』を発表。奇しくも今回で「舞踊のつどい」は解散となり、そのファイナルステージでのフィナーレを飾る事となったのです。

「庄巻のフィナーレ!!」と地元紙にも大きく取り上げていただき、多くの皆様からもお褒めを頂く事が出来、大きな達成感と歓びの、心に残るステージとなりました。今日まで数え切れない程のたく

さんの曲を覚えていただき発表して来ました。中でも特記したい曲は、☆パプリカ ☆タンシングヒーロー ☆365日の紙飛行機 ☆純烈 星降る街角 ☆TSUNAMI ☆愛燦燦 ☆また君に恋してる ☆夜明けのスキヤット ☆冬美のソーラン節 ☆渋谷で...? e.t.c

それぞれ年齢を重ね、若い時のように敏捷には動けなくなり、新曲に入ると覚える迄はとても大変ですが笑い転げながらの和氣譚々！歳を忘れて元気で続けたいものです。(文責 滝口ミチ子記)

## 掲 示 板

**新潟県公民館連合会の令和5年度当初の予定**

- 役員会
  - (1) 評議員会……年2回 (5月、2月)
    - ① 5月19日(金) ② 令和6年2月9日(金)
  - (2) 理事会……年3回 (5月、7月、2月)
    - ① 5月19日(金) ② 7月6日(休) ③ 令和6年2月9日(金)
  - (3) 監事会……年1回 5月10日(休)
- 第73回新潟県公民館大会
 

期日：令和5年7月28日(金) 会場：村上市総合文化会館  
対面とオンラインのハイブリッド形式での開催を準備  
1日日程で開催、事例発表も予定

# 実践記録シリーズ

## 「加茂市公民館 西分館の

## Re:スタートの取組」について

加茂市公民館

加茂市公民館 西分館は、令和3年度までは加茂西小学校の一部を借りて活動して来ましたが、

今年度、令和4年4月1日からは加茂西小学校と石川小学校が統合したため、旧加茂西小学校の校舎1階部分を借りて再スタートを切りました。これまで長い間、地区の小学校と一体的な活動を展開してきたので、今回の再スタートは、地域に住んでいる皆さまの地域に対する意識や想いと分館活動とのリンクを指して行くもので、それは新たなスタートであるのと同時に、真の分館活動とは何かへのチャレンジでもあります。

今回は、リスタートした「加茂市公民館 西分館」の活動の一部をご紹介します。



### 七夕まつり

7月3日から7月10日まで行いました。前日の、7月2日に地域の竹に飾り付けました。開催中は荒れた天候の日もありましたが、夜はライトアップをして10日の最終日まで多くの家族連れでにぎわいました。



### 夏休み親子教室（ワークショップ）

西分館文化祭や公民館作品展に展示する作品を作成するため、夏休み中に「親子草染め教室」「子供絵画教室」「親子陶芸教室」を開催しました。「親子草染め教室」では、西分館の周辺に自生している草を採取し、講師先生の指導のもと草染めを行いました。



「子供絵画教室」では、講師先生の指導のもと西地区の特産品の桃や野菜を描きました。また、ダンボールを利用して子供達が協力しながら絵を描き、大作が仕上がりました。「親子陶芸教室」では、芸術家でもある坂上和雄分館長が自ら指導し、作品づくりを行いました。

### 西分館文化祭

10月1・2日、西分館の体育館で文化祭を開催しました。前記の夏休み親子教室（ワークショップ）で作成した作品や、地域で活躍する作家の皆さんの作品を展示しました。特設した軽トラ市では、地域の特産品の果樹（梨、桃、ぶどう）や野菜を、キッチンカーでは飲み物を販売し、新しい時代の文化祭を目指しました。素晴らしい秋晴れで、天候にも恵まれました。



### 講演会

10月22日、大西金吾氏を講師にお招きし、「輝いて生きる!! 笑いと健康」という演題で講演会を開催しました。健康に過ごす秘訣や免疫力アップについて学びました。



### 今後

今後も、「雪まつり」と「そば打ち体験会」を計画しており、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら活動していく予定です。リスタートした西分館のチャレンジは始まったばかりです。

# 素顔拝見



写真左：新保主査／写真右：米山主任／中央イラストは市民フ  
ラザのゆるキャラ「しみぶつ」

まずは米山さん。主に成人式と市民大学を担当しています。コロナ禍での催し物や講座運営に日々奮闘しています。一年目とは思えない落ち着いた

柏崎市教育委員会  
文化・生涯学習課（柏崎公民館）  
学習推進係主任 米山 理絵さん  
文化振興係主査 新保 秀明さん

令和4年4月からの新任職員のお2人をご紹介します。

いた仕事ぶりは周りに安心感を与えてくれます。プライベートでは、趣味のピアノのグレードアップに挑戦中。現在はピアノの弾き語りをめざしているとのこと。

そして、新保さん。若い発想と持ち前の行動力で美術展覧会や音楽イベント等を手掛けます。趣味では和太鼓チーム「太鼓集団 鼓明楽こあら」を立ち上げ、市内外でパフォーマンスを展開しています。コミュニティまつり等の地域でのイベント出演依頼受付中だそうです。

対照的な2人ですが、生涯学習の精神は共通のようです。それぞれの特徴と得意技を活かしながら、柏崎公民館を引っ張っていつてくれることに期待が膨らみます。

〔柏崎公民館 星野淳一 記〕

## インフォメーション

### 令和4年度関東甲信越静公民館連絡協議会（関ブロ） 第3回理事会

令和5年2月10日（金）に関ブロの第3回理事会がオンラインで開催されました。新潟県からは久保田会長、岩野副会長、五井事務局長が参加しました。その会議の中から令和5年度と6年度の関ブロ公民館研究大会の予定をお知らせします。

- 令和5年度 第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会  
期 日：令和5年9月28日（木）～29日（金）  
会 場：長野県 長野市芸術館 他  
テーマ：「人をつなぎ、時をこえて、未来を創る」  
～住民とともに今を切り拓く公民館～  
1日目：全体会／講演会講師 小平奈緒さん（平昌オリンピック金メダリスト）  
2日目：分科会5分科会／新潟県は上越地域から発表予定
- 令和6年度 第64回関東甲信越静公民館研究大会新潟大会  
期 日：令和6年11月7日（木）～8日（金）  
会 場：【全体会】上越文化会館 大ホール  
【分科会】5分科会



オンライン理事会

### 編集後記

昨年12月に柏崎市、長岡市などでの大渋滞や佐渡市などで長期の停電が発生した大雪。その一方で魚沼地域南部や上越地域では例年より小雪。1月になると大寒波による各地での断水や大雪。2月には新潟市中心部だけが雪で渋滞が発生。一方、トルコとシリアで大地震。「過去に経験したことのない」が枕詞の自然災害の時代になっているようです。

長野市での関ブロ公民館研究大会の分科会テーマの一つが「地域防災と公民館の役割」で、新潟県からも発表予定です。これからの公民館の大きなテーマになると考えています。（五井）



# 令和5年度新潟県 受付中! 交通災害共済

**年会費 500円**  
ひとり年額500円です。途中加入の場合も同額です。

**見舞金 3万円（実治療7日）～ 最高150万円**  
（死亡）

**共済期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日**  
※途中加入の場合は、加入した日の翌日から令和6年3月31日までです。

新潟県で加入が義務付けられている自転車損害賠償責任保険等には該当しません。

お問い合わせは、お住まいの市役所・町村役場の担当窓口へ 新潟県市町村総合事務組合